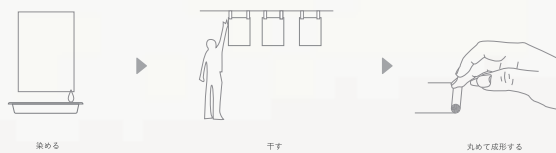


描く楽しさに注目した紙製画材

Art Tools That Put A Focus On The Enjoyment Of Drawing

石井 俊介

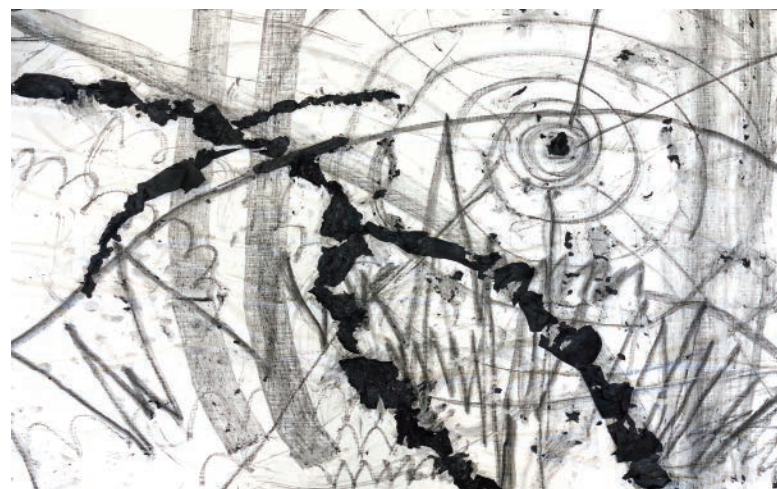
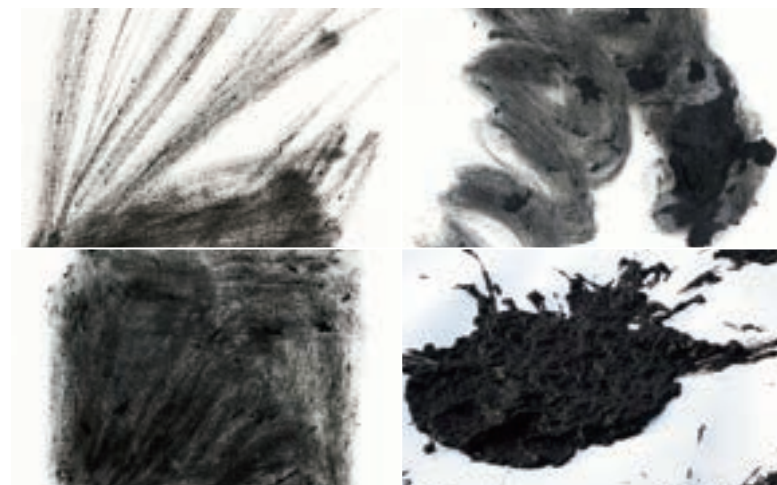


水溶紙と墨汁による画材の研究

多くの画材は絵を描くために存在するが、この画材は「描く」行為自体を楽しむ事に注目している。紙と墨汁というシンプルな材料から作られた画材だからこそ様々な「描く」に対応しており、使用者の描画体験を楽しむものにしてくれる。

Researching The Combination of Water-soluble Paper and Ink

Many art materials exist for the purpose of drawing. However, my proposal puts a renewed focus back on the enjoyment factor of drawing itself. The unification of paper and ink, makes it possible to draw in a variety of ways, making the experience of drawing a more enjoyable one.



「描く」楽しさの追求

画材は多くの場合顔料を画面に定着させる為膠などの固着材を使用する。この研究では水溶紙という水に溶けやすく乾燥すると固まる紙を固着材とし、画面に立体的な跡を残す事ができる性質を使い画材を制作した。

「運動的楽しさ」「画面に跡を付ける楽しさ」の大きく二つに描く楽しさを分類し、それらに対応するよう硬さや大きさ、形を模索していった。

使用方法

本体の画面に付ける面を水につけ画面に擦り付ける。千切ったり、ぐりぐり押し付けたりすることにより同じ画材で描いているとは思えない程の表情を画面に表現する事ができ、乾燥後はしっかりと固まり定着するので立体になっている部分も取れにくくなっている。